

平成 28 年 4 月 22 日

城西大学

学長 森本 雍憲 殿

平成 27 年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書の提出について

平成 27 年度の城西大学の動物実験に関する自己点検・評価報告書を作成致しましたので、ここに提出致します。

なお、自己点検・評価は以下の項目について実施致しました。

自己点検・評価項目

I 規定及び体制等の整備状況

- 1) 機関内規定
- 2) 各種委員会
- 3) 動物実験の実施体制
- 4) 実験施設の設置状況
- 5) 安全管理状況

II 実施状況

- 1) 動物実験委員会
- 2) 動物実験の実施状況
- 3) 実験動物の飼育保管環境
- 4) 教育訓練の実施状況
- 5) 自己点検・評価、情報公開

以上

城西大学動物実験管理自己点検評価委員会

松本 明世 (委員長)

和田 政裕 (副委員長)

古旗 賢二 (委員)

一色 恭徳 (委員)

内田 昌希 (委員)

平成 27 年度

城西大学動物実験自己点検・評価報告書

平成 28 年 4 月 22 日

城西大学動物実験管理自己点検評価委員会

本報告書は、城西大学動物実験規定第 14 章（自己点検・評価・検証）第 55 条に基づき、城西大学動物実験管理自己点検評価委員会が作成したものである。

作成日：平成 28 年 4 月 22 日

作成者：松本明世（委員長）、和田政裕（副委員長）、古旗賢二（委員）、一色恭徳（委員）、
内田昌希（委員）

I 規程及び体制等の整備状況

1) 機関内規程

[現状と点検・評価]

「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」と表記する）に適合する機関内規程（城西大学動物実験規程、平成 19 年 10 月 12 日制定・施行、平成 22 年 6 月 23 日一部改正）が定められており、適正であると判断できる。

薬学部の教室配属の関する制度改正に伴い、動物施設利用者の資格に変更が生じたので、施設利用者の資格に関し一部改正したが、現状の変更に關する適正な対応である。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

2) 各種動物関連委員会

[現状と点検・評価]

基本指針に適合する「城西大学全学動物実験管理委員会」の下、「動物実験管理委員会」「動物実験委員会」「動物実験広報委員会」等、各種関連各種委員会が組織され、適正に運営されている。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

3) 動物実験の実施体制

[現状と点検・評価]

動物実験は城西大学動物実験規程第 9 章に従って実験計画の立案(動物実験計画書、書式 1)、審査、手続きを経、適正に実施される体制になっている。動物実験の終了時には実験結果報告書(書式 2)と動物実験終了・中止報告書(書式 8)の提出が定められており、適正と判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

4) 実験施設の設置状況

[現状と点検・評価]

動物の飼育と動物実験が実施された 6 号館、16 号館、18 号館の実験室、アイソトープセンター実験室、6 号館動物飼育室、16 号館動物飼育室、生命科学センター内実験室及び動物飼育施設はいずれも城西大学動物実験規程第 10 章第 37 条から第 42 条に従って設置管理され、城西大学全学動物実験管理委員会の承認を得たもので、動物実験に適切な施設であると判断できる（実験室設置承認申請書 書式 5、実験室設置承認書）。また実験動物の飼育・管理に関しては同規程第 11 章第 43 条から第 51 条に適合する施設が設置されている(飼育保管施設設置承認申請書 書式 4、飼育保管施設設置承認申請書)。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

5) 安全管理状況

[現状と点検・評価]

動物実験を実施する教員、大学院生、学部学生はすべて、城西大学動物実験管理委員会、生命科

学研究センター、及び薬学部動物管理委員会が主催する「実験動物施設利用説明・講習会」に参加することが義務付けられており、安全管理体制は整備されている(実験動物施設利用の手引、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン)。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

II 実施状況

1) 動物実験委員会

[現状と点検・評価]

「城西大学動物実験規程」に基づき、委員会活動が実施されており、基本指針に適合し、適正に機能していると判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

2) 動物実験の実施状況

[現状と点検・評価]

平成 27 年度は 92 件の動物実験計画書が提出され、外部委員 2 名を含む動物実験委員会(6 名)で本学の動物実験規程に照らして審査した結果、すべての動物実験計画が許可された。動物実験委員会による動物実験計画書の審査は、厳正・適正に実施されたと判断できる。

動物実験を実施する教員、大学院生、学部学生はすべて、城西大学動物実験管理委員会、生命科学センター及び薬学部動物管理委員会が主催する「実験動物施設利用説明・講習会」(第 1 回 4 月 25 日及び第 2 回 5 月 9 日)に参加することが義務付けられており、動物実験の実施状況は良好であった[実験動物施設利用の手引き(生命科学センター、薬学部動物施設)]。平成 27 年度に実施された動物実験に関する動物実験計画書(書式 1)、動物実験結果報告書(書式 2)、動物実験計画(変更・追加)承認申請書(書式 3)、動物実験終了・中止報告書(書式 8)を精査した(平成 28 年 3 月 7 日)結果を別表にまとめて示した。別表の申請数とは最初の動物実験計画書の申請数であり、使用数は動物実験終了・中止報告書の使用数である。平成 27 年度の実験動物使用匹数は以下の通りである。

・ラット	5,431 頭
・マウス	4,588 頭
・モルモット	0 頭
・スナネズミ	0 頭
・トノサマガエル	70 頭
・ウサギ	102 頭
合計	10,191 頭

すべてにおいて所定の書式が提出され、申請数と使用数の間に想定以上の違いがあるものについては、全て動物実験計画(変更・追加)承認申請書が提出され、承認されている。

平成 27 年度における動物実験に基づく研究成果は学会における発表 48 件、論文として 12 報が

公表された。薬学科6年制は9年目となり、大学院博士課程4年生までが在籍し、研究活動が盛んになっている状況が窺われる。昨年度に比べると学会発表件数は126%に増加している。公表された論文件数は減少しているものの、動物実験報告書をみると論文作成中としているものが多くあり、誌上発表を意識していることが判断できる。一方、平成27年度も実験計画書88件中8件の中止があった。また、数多くの実験計画の変更が申請されており、更に精査した実験計画を提出することが求められる。

[改善方策]

動物実験の実施状況は昨年と比較し良好であり、学会発表も増加しているが、誌上発表の数は少なく、さらに論文作成に時間をかける必要があると考えられる。論文作成の過程で実験方法の見直しや結果の解析力が得られるので、論文作成を中心にした動物実験計画を立案することが望まれる。

3) 実験動物の飼育保管環境

[現状と点検・評価]

実験動物の飼育・管理に関しては城西大学動物実験規程第11章第43条から第51条に従って適正に実施された。東日本大震災の教訓から、動物飼育施設において、特に遺伝子改変動物の飼育に関しては、厳重な飼育場所と同時にネズミ返し等の防御策がとられ、また、可燃性のエーテルがプラスチックの箱の中に置かれ瓶が破損しないような対策が施されるなど、改善されている。

使用量が多い6号館動物飼育施設及び生命科学センター内実験室と動物飼育施設は、夏季に消毒が実施され、他の実験室や飼育室も適切に清掃されている。

[改善方策]

地震などによるケージの落下を想定し動物が逸走しないよう、飼育環境の整備に努め、また密室性が高いことを考慮し、可燃性有機溶媒の保管には引き続き注意することに努める。

まれに放置されている動物がいると思われるので、各研究室で飼育動物の管理に努める。

過去にあった野ネズミの侵入は、確認されてはいないが、引き続き注意することが必要である。

4) 教育訓練の実施状況

[現状と点検・評価]

平成27年度第1回4月25日及び第2回5月9日に、動物実験に関わる全ての教員、大学院生、学部学生、研究生を対象とした実験動物施設利用説明・講習会が基本指針に沿って適正に開催された(実験動物施設利用の手引き、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン)。

犠牲動物に対する慰霊祭は平成28年3月5日に動物慰霊祭が行われ、234名の薬学部教員、大学院生および学生が参加した。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

5) 自己点検・評価、情報公開

[現状と点検・評価]

城西大学動物管理自己点検評価委員会による、平成27年度の動物実験管理に関する自己点検評

価は、全ての動物実験結果報告書が提出され、各委員会の報告書も提出されており、ここに同報告書を作成することができた。情報公開については、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」に準じて、1) 全学動物管理委員会等の名簿、2) 城西大学動物実験自己点検・評価報告書、3) 動物実験に関する届出・計画書式が公開されている（平成 27 年 6 月 5 日）。なお、「外部評価報告書」は、国公立大学実験動物施設協会による外部検証実施後に、その報告書を公開する予定としている。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

平成27年度 動物実験実施状況(動物実験管理自己点検・評価委員会)

動物種	動物申請数、使用数				研究成果(予定を含む)										
	ラット	マウス	モルモット	スナネズミ	トノサマカエル	家兎	学会発表	論文発表	備考						
承認番号	申請数	使用数	申請数	使用数	申請数	使用数	申請数	使用数	申請数	使用数					
H27001	50	1	400	200	27	0					1	Global Dermatology			
H27002	50	0	400	100							1	Biol Pharm Bull, 薬学会			
H27003	20	20										中止			
H27004	270	220	360	0								1 Pharm Res			
H27005	69	69									1	薬学会			
H27006			500	1262								薬学実習Ⅲ、薬毒物分析			
H27007	39	30										薬毒物分析(2014年度)			
H27008	551	530	836	660			76	70				薬毒物分析(2014年度)			
H27009	210	198	362	350								薬毒物分析(2014年度)			
H27010	20	0													
H27011	60	52													
H27012	150	227									1	薬学会			
H27013			34	36											
H27014	51	51													
H27015	205	205										1 Biol Pharm Bull			
H27016	175	175									2	小児診療多職種研究会、薬学会関東支部会			
H27017			60	60								研究開発推進部、薬学第一・第二部、日本薬学会			
H27018	72	72									1	Biol Pharm Bull			
H27019	96	96	192	192							1	薬理学会関東支部会			
H27020	72	72									1	薬学会関東支部会			
H27021			60	98							2	和漢医薬学会、薬学会			
H27022	90	57									1	薬学会			
H27023	50	30									1	LS-BT合同研究会			
H27024	70	50									1	薬学会			
H27025	48	80									1	中止			
H27026	36	0									1	中止			
H27027	24	24									7	0			
H27028											7	0			
H27029											50	49			
H27030															
H27031	108	132									1	小児診療多職種研究会			
H27032	76	31													
H27033											75	49			
H27034	28	59	40	138							1	薬毒学会、薬学会			
H27035			120	50											
H27036	220	180													
H27037			120	70											
H27038			180	95							1	薬理学会			
H27039			30	30								「150例」の臨床ケース - 日本薬学会誌			
H27040	180	63													
H27041	72	22													
H27042	30	30													
H27043	30	15													
H27044	96	0	48	50							2	アトピー性皮膚炎治療研究会、薬学会			
H27045	80	42	54	0							1	1 Fundam Toxicol Sci, 薬学会			
H27046	80	38	36	0							1	薬学会			
H27047	60	24									1	薬学会			
H27048	64	16	42	20							1	薬学会関東支部会			
H27049	28	16													
H27050	60	20	30	30							1	毒性学会			
H27051	180	170									1	補完代替医療学会			
H27052	144	137									2	薬理学会関東支部会、薬学会			
H27053	180	180													
H27054	180	178									1	薬学会			
H27055	180	170										中止			
H27056			120	0											
H27057			160	156											
H27058			32	32											
H27059	50	7	150	225							2	1 OPG-OPB, ACH215, 薬毒-食毒学会			
H27060			96	0								中止			
H27061			192	0								中止			
H27062	50	25													
H27063	80	60	60	60							1	1 Dermal Research International, 補完代替医療学会			
H27064			36	36							1	薬学会			
H27065	70	67									1	薬学会			
H27066			24	0											
H27067	40	38									1	1 New Food Industry, 補完代替医療学会			
H27068			24	55							1	薬学会			
H27069	20	20										総合医療栄養学演習			
H27070	150	270	100	100							3	薬理学会関東支部会			
H27071	70	7									1	生化学学会			
H27072	84	29	210	0							3	薬毒学会、1575799-2017年、薬毒			
H27073			156	183							1	Toxicology Reports			
H27074	25	0										中止			
H27075	48	48													
H27076	48	48													
H27077	40	40	50	50							2	薬学会			
H27078			168	110							1	薬学会			
H27079			30	31							1	栄養改善学会			
H27080			50	15							1	Phytomedicine			
H27081			60	60											
H27082	15	8													
H27083	360	360									1	薬学会			
H27084											7	4			
H27085	72	10													
H27086	144	402									1	Biochim Biophys Acta			
H27087	300	202	0	36											
H27088	8	8													
計	6228	5431	5622	4588	27	0	0	0	76	70	146	102	48	12	ヘアレスラット系統維持

動物実験申請総数:88件 中止件数:8件 総使用動物数:10,191匹 学会発表数:48件 発表論文数:12報

平成 27 年度 動物実験管理自己点検評価委員会活動報告

委員会名	動物実験管理自己点検評価委員会
委員	委員長 松本 明世 副委員長 和田 政裕 委員 古旗 賢二 一色 恭徳 内田 昌希
会議回数	1 回（メール会議）
実施状況と結果	各実験動物委員会報告を受け、取りまとめと評価についてメール会議を行った。 平成 27 年度 城西大学動物実験自己点検・評価報告書を学長に提出した。
活動の評価	予定通りに行った。

平成27年度 動物実験委員会活動報告書(案)

委員会メンバー：荻原政彦（委員長）、小林順（副委員長）、清水純、木村光利
内田干城（外部委員）、平ふみ子（外部委員）、
三橋秀行（事務局）、玉井彩子（事務局）、浦野重之（事務局長）

1 平成27年度の動物実験委員会活動計画

- 1) 平成27年度の動物実験管理委員会への動物実験実施計画書の募集を依頼
- 2) 定期的な動物実験実施計画書の審査を実施
- 3) 臨時の動物実験実施計画書の募集とその審査を実施
- 4) 動物実験管理委員会へ動物実験実施報告書の提出を依頼
- 5) 動物実験管理委員会へ新規実験室設置承認申請書の提出依頼と調査の実施依頼

2 平成27年度の動物実験委員会活動報告

(1) 外部委員出席の下で、定期的な動物実験実施計画書の審査を実施した。

- 1) 日時：平成27年4月7日、12時00分～13時00分、於：薬学部小会議室
申請書類数81件（受付番号H27001～27081）（延べ83件、内新規動物実験実施計画書19件）が提出された。

本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

- 2) 日時：平成27年10月9日、12時30分～13時00分、於：薬学部小会議室
計画変更届4件、新規動物実験実施計画書7件（H27082～27088）が提出された。本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

(2) 動物実験管理委員会から提出された動物実験実施報告書の審査を実施した。

日時：平成28年4月6日、14時30分～15時20分、於：薬学部小会議室。
実施報告書88件（承認番号H27001～H27088）（延べ90件）が提出された。

なお、承認番号H27006は、動物数が極端に変更されたことから、その理由(死亡率、使用例数および実数等を含む積算根拠)を明確にし、また、遺伝子組換え動物の繁殖、飼育に係わる実験施設について、動物の取扱法や処分法等を明確にした書類を併せて再提出する事とした。その結果、4/16に再提出され、緊急審議を実施し承認とした。
以上、本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

3 平成27年度の動物実験委員会活動の自己評価

年度当初の活動計画を実行できたものと考えられる。

4 その他

『動物実験計画書苦痛のカテゴリーと病態モデル動物について』に関して、平成27年度 第3回動物委員会（平成28年4月6日）で慎重に審議した結果、『病態モデル動物を購入したとしても、その動物自身は、その病態による苦痛を伴う故、昨年度および昨年度以前と同様のカテゴリーとなる』との結論に至った。

以上

平成28年4月16日（土）荻原政彦(委員長)

平成27年度委員会報告

委員会名	動物実験広報委員会
委員	委員長 津田 整 副委員長 荒田洋一郎 委員 加園恵三、工藤なをみ、須永克佳、上田秀雄
会議回数	2回 (平成26年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書の公表について。平成27年度活動報告について)
年度始めの計画	城西大学全学動物実験管理委員会の活動をホームページ等により広報する。
実施状況と結果	実施状況 全学動物実験委員会の指示により情報公開として、平成25年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書を平成27年1月20日に公開したのに引き続き、平成26年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書を平成27年6月5日にホームページで公開した。 平成27年度動物慰霊祭の概要を平成28年3月9日にホームページで公開した。
自己評価	全学動物実験委員会の情報公開の指示に従い、平成26年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書を公開し、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」に準じた情報公開ができたと考えられ、順当な活動が行われたと評価できる。

平成 27 年度動物実験管理委員会活動報告

委員会名	動物実験管理委員会
メンバー	委員長 夏目、副委員長 真野、岡崎、田中享、金、山崎、菊池、小川 (JAC)
会議回数	3 回 (メール会議 1 回含) 議事録は別紙添付
年度初めの計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・訓練の実施 → 生命研、薬学部動物管理委員会合同 2. 中間期での動物実験計画書、動物実験室等の追加等の提出および加筆訂正 3. 平成 27 年度動物実験結果報告書の作成依頼および加筆訂正 4. 平成 28 年度動物実験計画書等の作成依頼 5. 動物慰霊祭の開催 → 生命研、薬学部動物管理委員会合同 6. 平成 27 年度動物実験結果報告書、平成 28 年度動物実験計画書等の提出 → 全学動物実験管理委員会へ 7. 以下の項目を適宜、指導、実施する。 規定第 20 条 2 の(2)、(3)、(6)
実施状況結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学動物実験管理委員会、生命科学研究センターおよび薬学部動物管理委員会との合同で、平成 27 年度「動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会」を開催した (第 1 回 4 月 25 日 (土) および第 2 回 5 月 9 日 (土) 15:30~、6-22)。 2. 中間期での動物実験計画書、動物実験室等の追加等の提出を依頼し(7 月)、加筆訂正後、全学動物実験委員会に提出した (9 月)。 3. 平成 27 年度動物実験結果報告書の作成を依頼し (平成 28 年 1 月)、加筆訂正した (平成 28 年 3 月)。 4. 平成 28 年度動物実験計画書等の作成を依頼し (平成 28 年 1 月)、加筆訂正した (平成 28 年 3 月)。 5. 全学動物実験管理委員会から依頼のあった動物慰霊祭を薬学部動物管理委員会と共に開催した。 日時：平成 28 年 3 月 5 日 (土) 15:00~ 場所：6 号館 6-22 6. 平成 27 年度動物実験結果報告書、平成 28 年度動物実験計画書等を全学動物実験管理委員会へ提出した (平成 28 年 3 月)。 7. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 次年度の動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会の開催日時を協議した。 2) 病態モデル動物を購入したときの、動物実験計画書内の動物の苦痛レベルをどのように考えるか、動物実験委員会にお伺いを立てた。 3) 薬学部動物施設および生命科学研究センターの平成 27 年度の飼養に関して点検し、各施設から飼養報告書が提出された (別紙添付)。

活動の 評価	<ol style="list-style-type: none">1. 概ね滞りなく行った。2. 動物搬入時の保管を徹底した。3. 第 1 回動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会の参加者は 261 名、第 2 回は 266 名であった。3. 動物慰霊祭は、234 名が参加して行われた。
-----------	---

平成27年度第1回動物実験管理委員会 議事録 メール会議

参加者：夏目、真野、岡崎、金、田中享、山崎、菊池

日時：平成27年4月21日（火）

- 議題：1. 4月25日（土）および5月9日（土）に開催予定の「第1回および第2回の動物管理に関する教育訓練および施設利用方法講習会」の役割分担について協議し、決定した。
2. 医療栄養学科の学部学生（3年生）に対して、栄養生理学実習内で行う教育訓練について
全体的な講義を夏目が、6号館の動物施設の利用に関して金が説明することにした（9月24日（木）、16号館301号室）。
3. 平成27年度の計画（案）について協議し、決定した。

平成27年度第2回動物実験管理委員会 議事録 メール会議

参加者：夏目、真野、岡崎、田中享、金、山崎研、菊池

日時：平成27年6月19日（金）

議題：1) 外部検証に関連した動物の麻酔薬、鎮痛薬および安楽死処置方法について、動物実験委員会と合同でメール会議を行った。城西大学としてどのようにするか議論し、最終的な対応方法を動物実験委員会内で決定することとした。

以上

平成27年度第3回動物実験管理委員会 議事録

参加者：夏目、真野、岡崎、田中享、金、山崎研、菊池

日時：平成27年9月15日（火）17：00～

場所：6号館学部長室

議題：1) 中間期に提出された動物実験計画書（書式1）、実験室設置承認申請書（書式5）等の記載内容等の同委員会によるチェック、判断

提出された動物実験計画書（書式1）、実験室設置承認申請書（書式5）等の記載内容等に不備等がないかチェックし、これらの書類の妥当性を判断して、すべての提出書類を全学動物実験管理委員会へ提出した。

以上

平成27年度第4回動物実験管理委員会 議事録

日時：平成28年3月7日（月）17時00分～

場所：6号館小会議室（6号館2階）

出席者：真野、岡崎、金賢、田中享、夏目、山崎

議題：1) 提出された動物実験結果報告書（書式2）、終了・中止報告書（書式8）、動物実験計画（変更・追加）承認申請書（書式3）の記載内容等の同委員会によるチェック、判断

提出された動物実験結果報告書（書式2）、終了・中止報告書（書式8）、動物実験計画（変更・追加）承認申請書（書式3）の記載内容等に不備等がないかチェックし、これらの書類の妥当性を判断して、すべての提出書類を全学動物実験管理委員会へ提出することとした。

2) 動物実験計画書（書式1）の記載内容等の同委員会によるチェック、判断

提出された動物実験計画書（書式1）の記載内容等に不備等がないかチェックし、これらの書類の妥当性を判断して、すべての提出書類を全学動物実験管理委員会へ提出した。

3) 次年度の動物実験に関する教育訓練及び施設利用説明・講習会の開催日時について

平成27年度の標記開催日時を、平成28年4月23日（土）15：30～（第1回）、5月7日（土）15：30～（第2回）とし、場所を6-22とすることを決定した。

4) 病態モデル動物を購入し、飼育し、実験に供与する場合の動物実験計画書内の苦痛のカテゴリーをどのようにしたらよいか、動物実験委員会に意見を伺うこととした。

平成 27 年度 実験動物飼養施設報告書（薬学部動物施設）

- (1) 6 号館動物施設に関して、年間を通して概ね良好な飼養環境が維持された。年度当初の予定通り、6 号館動物施設の保守・点検、修理および必要な物品の購入等を下記の通り行った。
- 1) 保守・点検
 - ① 空調保守点検を実施した（7 月 7 日）。
 - 2) 不具合の整備・修理
 - ① ラット室給水フィルターハウジングが破損、交換を行った（8 月 7 日）。
 - ② 飼育室廊下の給水フィルターハウジングが破損、交換を行った（2 月 8 日）。
 - 3) 物品購入：飼育用品の補充、消毒用品等
- (2) 16 号館動物施設に関して、年間を通して概ね良好な飼養環境が維持された。16 号館動物施設の保守・点検、必要なものの購入等を下記の通り行った。
- 1) 保守・点検
 - ① 空調保守点検を実施した（7 月 3 日）。
 - 2) 蒸気加湿器の不具合のため、交換を行った。
 - 3) 物品購入：飼育用品の補充、消毒用品等
- (3) 6 号館および 16 号館動物施設の消毒とこれに伴う利用の調整を行った。
- ・ 6 号館の消毒：7 月 7～11 日
 - ・ 16 号館の消毒：7 月 3～7 日
- (4) その他
- 1) 利用者のマナーについて
動物室の利用マナー改善について、委員会より適宜注意喚起等を行った。

以上（文責 岡崎）

平成 28 年 4 月 7 日

実験動物飼養施設報告（生命科学研究センター）

平成 27 年度生命科学研究センターにおける実験動物の飼養につきましては、年間を通し、概ね良好な飼育環境を維持することができました。

設備更新、修繕、保守点検、消毒作業、環境検査、SPF ヘアレスラットモニタリング検査、物品の購入等を下記の通り行いました。

設備更新

感染室用小型オートクレーブ交換工事 2月16～26日

修繕

生命科学研究センター4階水漏れ対応 7月14日

給水フィルター目詰り交換修理 10月22日

空調機不良対応 11月3日

断水対応 11月27日

パスボックスドアノブ故障 12月22日

衣類乾燥機台交換修理 1月8日

非常用電源工事（停電）1月26日

空調機点検（ヘパフィルタ交換工事）2月18日

ケージウォッシャー修理 3月24日

保守点検

オートクレーブ（小型）法定定期検査 7月 8日

オートクレーブ（大型）法定定期検査 2月24日

消毒作業

生命科学研究センター消毒清掃作業 7月13日～25日

環境検査

1回目 6月17日、異常なし

2回目 10月21日、異常なし

3回目 3月 9日、異常なし

SPF ヘアレスラットモニタリング検査

1回目 8月28日、異常なし

2回目 11月17日、異常なし

3回目 3月 8日、異常なし

物品の購入

実験動物麻酔装置、麻酔装置用活性炭フィルター、衣類乾燥機用ユニット台、セーフ

ティーラック用電源コード、流水架台用タンクフロート、トナーカートリッジ、アクアフィルター、アクアフィルターケーシング、ケージワッシャー用 B 槽給蒸電磁弁、減圧弁、圧力弁、自動給水管両端用パッキン、自動給水バルブ TV-25、止血鉗子、エコナーク 30、トランスポートアガー、給水瓶、ホワイトケージ、クリーンケージ、PX ケージ、殺菌灯 (GL-30、GL-15、GL-6、水中用殺菌灯)、エスクリニカルパック、ホスピタルスリッパ、無塵衣、ラテックグローブ、クリンファースト 1000、オペラ衛生マット、ニトリスフィット (手袋)、JK ワイパー、コンファートサービスタオル、活性炭マスク、モップ替え糸、塵取り、ヨードチンキ、生理食塩水、ツルクロン、マイクロカット、ウォッシュボン、洗濯洗剤等

生命科学研究センター
所長 夏目秀視